

(様式)

平成28年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名 三木市立星陽中学校

1 学校教育目標

主体的に学ぶ ころ豊かで 自立した たくましい生徒の育成

2 本年度の重点目標

○ めざす学校像

- ・生徒、教師、保護者がころ通い合いやすらぎのある学校
- ・学ぶ喜びと楽しさがある学校
- ・規律のある美しい学校

○ めざす生徒像

- ・基本的生活習慣を身につけた生徒
- ・主体的に学ぶとする生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・体力や忍耐力のある生徒

○ めざす教師像

- ・教育に情熱を持ち温かさと厳しさで生徒の個性や能力を伸ばす教師
- ・使命感と高い倫理観をもった教師
- ・高い専門性と実践的指導力を培う教師

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの研究とわかる授業づくり ・家庭学習の習慣化 ・放課後や長期休業中の補充学習 ・学習方法の指導 ・「ひょうごがんばりタイム」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸大大学院准教授 川地先生の指導を受けながらアクティブ・ラーニングを意識した授業力の向上に取り組む、研究発表会で一定の成果を発表できた。 ・「星陽サポートタイム」と3年生の放課後の補習を連動させ、英語、数学に国語を加え、重点的に指導。 ・「家庭学習強化週間」や「自主学習ノート」の継続した取組によって家庭学習の大切さを理解する生徒が増加傾向を示す。 ・学校評価アンケートで「学力が向上している」と回答した生徒は昨年度の69.7%から70.3%に上昇した。また、その他の学習指導に関する問いも3問中2問で80%を超えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した研究発表会の取組を通して授業改善に取り組んだ結果ある程度の成果を残すことが出来たが、あくまで通過点と捉え、更なる研究を深め、基礎基本の徹底とアクティブ・ラーニングの充実を図る。 ・スーパーティーチャー等を招聘した研究授業を実施するとともに、気軽に授業を公開し合い、授業改善に努める。 ・「星陽サポートタイム」の効果的な活用や長期休業中の補充学習の推進を図る。(部活動でも練習後に宿題チェック等を実施) ・家庭学習をさらに定着させ、習慣化させるため、「家庭学習強化週間」や「自主学習ノート」の取組を継続する。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 ・開発的生徒指導の推進 ・不登校を出さない取組 ・いじめを許さない学校作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学級指導の充実 ・全教職員による下校指導の実施 ・「学校生活アンケート」調査実施(6・11月) ・「カウンセリングウィーク」による教育相談の充実(6・11月) ・養護教諭やスクールカウンセラーと連携した不登校対策及び教育相談活動 ・校内不登校対策委員会と市教委、専門機関とによるケース会議を2回実施 ・学校評価アンケートで「先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」と回答した生徒は昨年度の71.7%から80.2%に上昇した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、部活動、教科指導等、あらゆる場面を通じた心の通い合う人間関係の構築を強化し、「先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」と回答する生徒を100%に近づけたい。 ・定期的な教育相談の機会を継続し、生徒や保護者の悩みや相談事に真摯に向き合い、一緒に考える。ケースに応じ、学年団、管理職、養護教諭、スクールカウンセラーや関係機関と連携しながら問題解決を図る。 ・スクールカウンセラーによるストレスマネジメント、アングーマネジメント授業を実施し、効果的なフィードバックをする。
道徳・人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師招聘による親子人権学習会(情報モラル・いじめ防止) ・講師招聘による「命の授業」講演会 ・家庭と連携した兵庫県道徳教育副読本の活用(副読本の内容について保護者が生徒と話し合う時間を持ち、感想を提出) ・地域行事へのボランティア参加を推進した自尊感情や自己有用感の育成 ・人権意見発表会や人権ポスター等作成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の欄と重複するが、学級活動、部活動、教科指導等、あらゆる場面を通じた心の通い合う人間関係の構築を強化し、いじめ防止の取組を充実させる。 ・親子人権学習会の日曜日開催を継続し、参加保護者の増加を図る。 ・家庭と連携した兵庫県道徳教育副読本の活用を継続する。 ・自尊感情や自己有用感を育成するため、学校での教育活動以外に地域行事への参加を通じた推進を図る。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・評価方法は適切である。家庭学習強化週間の成果は評価できるが、家族からの励ましの言葉も頑張る大きな要因となるため保護者との連携をさらに図っていただきたい。

・評価方法は適切である。毎年の経年比較もあり、アンケート中心にならざるを得ない。「学校教育アンケート」の「その他」に生徒の成長に関する項目を入れてはどうか。

・評価は適切である。少し控えめの評価だとも思うが、学生の減少が進む中、先生の人数にも限りがあり、教科の兼任も余儀なくされており、ご努力を感じる。

・学力もとても大切ですが、体育祭を拝見させて頂き「個人個人」の体力差を考え、気を使われているのを感じた。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね評価については適切である。「先生は工夫してわかりやすい授業をしている」の問いに「そう思わない」が生徒の回答が0.0%に対し、保護者の回答に「そう思わない」が7.7%とあり、「あまりを」加えるとそれぞれ9.4%と46.2%と大きく開いている。当然ながら、保護者は子供との会話の中で感じられた結果と推測されるため、46.2%の数字を重要視し、内容について探求され改善を図っていただきたい。 ・評価はやや厳し過ぎる。管理職を中心に教師が一丸となって、神戸大学の応援も受けながら授業に取り組む、成果も上がっていると思えるため。 ・評価は適切である。放課後の補充学習に星陽サポートタイム(ひょうごがんばりタイム)を設けたり、学力の弱いところを主体的に学習するよう自主学習ノートなどに取り組む、家庭学習強化週間で家庭と連携した学力向上の取り組みは、色んな方向から努力されているのを感じる。 ・評価は適切である。アクティブラーニング等、新しい試みは大変評価できる。家庭学習の習慣化は保護者もまじえた改善策が必要に思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価及び改善の方策ともに適切である。少人数がゆえに「見えにくい部分、見逃しがちな部分があるかも知れない」と意識しながら生徒と接していただきたい。 ・評価はやや厳し過ぎる。どの項目に至っても、昨年より達成率が上がっており、規律ある学校運営や生徒指導が行われていると思えるため。 ・A評価が妥当である。第1回学校関係者評価委員会で不登校生徒がいると聞いて心配していたが教職員の努力により、改善された事は大きな成果と感じる。このまま不登校「ゼロ」を継続していただきたい。 ・評価は適切である。教育相談、生徒指導の取組や改善策は適切である。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価及び改善の方策ともに適切である。特に親子人権学習会は有効である。日常から家族間で人権の話ができることは、学ぶより感覚的に身につくので継続をお願いしたい。 ・評価は適切である。「ころかがやく」の利用や、腰塚氏の講演会など熱心に取り組んでいる。ただ、3年生と1年生の保護者で、少数ではあるが「そう思わない」に該当者がいることには注意していただきたい。 ・A評価にしても良いと感じる。情報社会の中で、色んな分野で「道徳、人権問題」を幅広く学習指導されているのが良く分かる。生徒自身の参加を推進され地域ボランティアを通じて道徳、人権問題も体験での推進を図られているのはすばらしいと思う。地域の文化祭などに今後も積極的にチャレンジしていただきたい。 ・評価は適切である。道徳、人権教育に地域行事に参加して人とのふれあいを勉強することはとてもいいと思う。

<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実 ・生徒会活動や係活動の活性化 ・積極的な部活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に則した学校行事の見直し 縦割り班による体育祭の実施、合唱コンクールから合唱発表会への変更、連合音楽会への全校生徒参加等 ・生徒会を中心とした行事の実施 ・「ひとりひと役」の推進 ・実態に則した部活動の精選 (サッカー部→男子テニス同好会) ・HPを利用した学校行事や部活動の活動状況をPR 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・更に生徒数が減少するため、いろいろな学校行事の持ち方の見直しを継続する。(行事の精選) ・サッカー部に続き、3年生引退後の女子バレーボール部についても検討せざるを得ない。他校との合同練習等を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は適切である。部活動については、学校としても保護者そして当事者である生徒も苦慮する問題である。他校やクラブチームへの参加も視野に入れ検討を重ねていただきたい。少人数でも陸上は参加でき、上位の大会にも出場しているので、指導をさらに高めていただき、「陸上するなら星陽中に行け」と言われるような学校を目指していただきたい。 ・評価は適切である。生徒数が少ないため、チーム競技については、在り方の検討が必要である。地域の特性を生かして、少人数でも可能な「ゴルフ部」等を新設してみてもどうか。 ・評価は適切である。少子化による生徒減少で団体行動等が制限される中、人数に合った活動は大変難しいと思われる。今後、合併が検討されると聞いて、子供達の故郷である母校を守ってほしい。星陽中の魅力を発信していただきたい。 ・評価は適切である。生徒の減少は避けられないので他校との合同練習は良い策であると思う。 ・評価は適切である。生徒数が減少し、子どもたちの好きなスポーツが出来ないことは残念である。試合は出来なくても可能な限り部活は残して欲しいと思う。
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒の理解と支援の充実 ・保護者、関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育指導補助員1名の配置実現 ・定期的な特別支援教育校内委員会の開催 ・保護者、関係機関等と連携した特別な支援を要する生徒のニーズに応じた教育の推進 ・関係機関等と連携し、ケース会議を実施 ・夏季三校合同研修の実施 (三木市教委スーパーカウンセラーによる研修会) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒については、保護者、関係機関等と連携しながら、「チーム学校」として、個々の生徒のニーズに応える教育の推進を図る。 ・定期的な特別支援教育校内委員会の開催や情報交換の場の設定を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価及び改善の方策について適切である。今後も関係機関及び保護者と連携し、ニーズに沿った教育をお願いしたい。 ・評価は厳し過ぎる。要支援生徒に対して、教師を配置する等、大変な事柄にも当該生徒保護者の立場に立って愛情深く取り組まれているため。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールの開催 ・学校、学級通信の定期的発行 ・ホームページの更新 ・地域行事への生徒の参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回のオープンスクール実施 ・月2回ペースでの学校通信の発行 ・学校の様子を伝えるホームページの更新 ・体育祭、文化祭への招待 (デイサービスセンター利用者) ・生徒がスタッフとして夏まつりに参加 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休日開催のオープンスクールを維持する。午前中の授業参観者も多少増加した。今後益々魅力ある授業づくりに努める。 ・地域、家庭と連携しながら、より一層、公民館行事や子供会行事への参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価及び改善の方策ともに適切である。共働きの多い中、休日でのオープンスクールは保護者や家族、地域の人々が参加しやすいので継続願いたい。また、地域との連携については、細川地区、口吉川地区のまちづくり協議会と連携して、町事業への積極的な参加をお願いしたい。中学生をはじめ子供たちが参加することにより、地域がより活性化する。 ・評価は適切である。少子高齢化が進む中で、地域に対しての貢献と郷土愛を育てる取組の充実を期待する。 ・評価は適切である。公民館行事への参加は社会勉強にもなり良い施策だと思う。
<p>教職員の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や研究発表会を通じた教科指導力の向上 ・生徒に寄り添った生徒指導の推進 ・校内研修の推進 ・自主的な研修への参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業や研究発表会への取組を通じた授業力の向上 ・組織対応を通じた生徒指導力の向上促進 ・三校合同による特別支援教育に関する夏季研修実施(人間関係構築能力育成) ・研修資料配布による紙上研修の実施 (ニュース・雑誌記事等からの事例研修) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を重ね、授業力の向上を目指してきた成果が表れた。学校評価アンケートの結果を見ると、生徒や保護者の肯定的評価の達成率が学習指導に関する問いに限らず、他のすべての分野で向上した。生徒の回答では、大幅に向上しているものもかなりあった。今後も生徒に寄り添った教育活動に専念する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は適切である。現在同様、今後も職員研修等への積極的な参加をお願いし、スキルアップを図っていただきたい。また、教職員の不祥事は絶対にあってははいけません。綱紀粛正に万全を期するようお願いする。 ・評価は適切である。教職員の懸命の努力が、学校教育の成果にも現れている。今後も寛容と教育愛をもって生徒に接していただきたい。
<p>安全指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の充実 ・防災訓練の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会保健部を活用した保健指導 ・熱中症予防講演会や薬物乱用防止教室の実施 ・学校保健委員会の実施(2月16日予定) ・保健だよりの発行 ・交通安全教室、登校、下校指導の実施 ・心肺蘇生法講習会の実施 ・自転車保険の加入促進 ・兵庫県警による携帯電話、スマホ使用に関わる講演会の実施 ・避難訓練の実施 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな怪我や病気をすることなく1年を過ごすことが出来た。様々な安全指導、健康指導の推進を継続する。 ・自転車通学生の自転車保険の加入100%は達成。他の生徒への加入促進を図る。 ・SNSに関するトラブルを防止するため、生徒、保護者両者への啓発を継続する。 ・より実践的な防災訓練の実施を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価及び改善の方策ともに適切である。引き続き指導を継続願いたい。 ・評価は適切である。自然災害に対する避難訓練のみではなく、将来起こりえる交通事故や火災、盗難等に対する備えを教育しておく必要があると思う。 ・評価は適切である。熱中症予防の講演会やインターネットによる危険についての講演など、社会でも大きく問題とされている事への取組が行われている。また、1.17合同追悼集会など、防災への意識が向上するような取り組みを積極的に行っており、今後もこのような取り組みが継続されることを期待する。 ・評価は適切である。安全指導の取り組みは評価できる。
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた進路指導 ・キャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた進路指導(職業調べ、トライやる・ウィーク、オープンハイスクールへの参加、進路説明会等) ・職業体験(2年生 介護・美容・ネイル) ・マナー講座 ・立春式の実施(講師による講話) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育のカリキュラムがまだ十分に完成していないので、整備し「キャリアノート」を活用する等、3年間を見通したキャリア教育、進路指導を実施する。 ・積極的な情報提供と相談体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は適切である。キャリア教育の充実を今後も引き続きお願いしたい。個人の能力を最大限伸ばせるよう、生徒自身をよく知っていただき、適切なアドバイスと相談をお願いしたい。 ・評価は適切である。中学生ともなれば、将来の自分の職業を具体的に考えさせ、その実現に向けての努力が自己実現に繋がり、自己の存在感を高めると思う。 ・評価は適切である。様々な職種の方から直接話しを聞く機会を作ること、将来の広がりを持たせることができる。専門家の方の授業を受けたり、企業の方の話を聞くなど、外部からの情報を受け取ることで、生徒の将来への視野が広がっていくため、今後も外部からの情報が得られるような機会をお願いしたい。 ・評価は適切である。今後もさらにキャリア教育の整備をお願いしたい。